

別記様式（第5関係）

会 議 録

会議の名称	西東京市市民との協働推進懇談会 第6回会議
開催日時	平成14年9月17日 19時から21時まで
開催場所	西東京市市役所 202・203会議室
出席者	坂口座長、渡辺副座長、秋山委員、小野委員、齋藤委員、菅原委員、須藤委員、高橋委員、瀧島委員（欠席者 山辺委員） （事務局）企画課・神野主幹、生活文化課・山本課長、宮寺主幹、小関主査
議 題	第5回会議録の確認 谷本有美子氏講演「協働型『自治』の模索 ～北区の事例から」
会議資料	1 第4回、第5回会議録 2 協働型「自治」の模索 ～北区の事例から（谷本氏レジュメ） 3 北区における市民活動の促進に向けて（北区区民活動促進検討委員会）
会議内容	発言者の発言内容ごとの要点記録
発言者名	会議内容
坂口座長	・ 前は民間の立場からセンター神奈川の川崎さんから行政と市民の協働について講演して頂いた。今回は元北区の職員で現在、東京財団のリサーチフェローである谷本さんに、行政の立場から講演して頂く。谷本氏は環境や介護の問題に行政として携わってこられた。市民活動もしておられるので、もうひとつの視点で協働のあり方を論じて頂く。
谷本氏	・ 市民との協働事業で6年活動した。わたし自身の悩んだことや協働の経験をお話する。 ・ 北区は南北に長い。様々な地域特性がある。南の方は田端のような昔ながらの下町。王子のあたりがまん中で、昔ながらの工場街だったが、現在は集合住宅が多くなっている。さらに北へいくと赤羽という大きな地域。住宅と工場が混在していたが、工場がでていくので、今は住宅が多い。なとりやカルビーの本社がある。下町的なところと、新しい市民が入ったまちの両面がある。 （施策の実施段階における協働） ・ 1992年ごろは区でリサイクルにどう取り組むかが問題になっていた時期。バブル後ゴミのリサイクルに取り組む人が出てきていた。市民の中に牛乳パックやアルミ缶のリサイクルにとりくむグループがたくさんできていた。 ・ 区で91年にリサイクルに取り組むことになった。当時の課長は、職員だけではリサイクルなどできないと考え、地域で活動している人を探し、リサイクル事業はなにをすればいいか模索していた。 ・ 市民の活動はエリアがせまい。活動拡大のため手段（たとえば車）がない。

- ・ 地域の中の担い手を集めて、計画をつくり共通課題に取り組んでいけばよいのではないかと考えた。これが「担い手の発掘、公募」であり、「北区リサイクラ？ 会議」になった。
- ・ そこで提案や思いを800字の文章にして書いてもらうという形で公募し34人の応募があった。
- ・ さまざまな活動をしている人が応募してきた。また、町会自治会が現存している。町会自治会の中心を担う人々の参加もあった。
- ・ 任期一年とした。新しい人材を発掘したいので、期限を切ることにした。
- ・ リサイクルの活動の輪をどうやって広げたら良いか。地域の中では環境は馴染みがなかった。参加者をどう増やすかが課題。
- ・ 回収システムをどう作るかを議論しつつ、視察し、自分達のシステムをどうつくるかを議論した。企業内でリサイクルしている人もあり、市民が何ができるかを議論した。
- ・ 活動のしやすさという点で、常に活動できる活動拠点施設をつくろうということだ。自由に使える施設があれば、活動がしやすい。そのような施設をつくるために計画（エコ広場館）をかんがえた。
- ・ リサイクラ？ 会議の任期終了後、一期の委員がのこって「北区リサイクラ？ 活動機構」という任意団体を立ち上げ、活動拠点施設の管理運営をやっていくことになった。
- ・ 「エコ広場館」は、タイミング的にもリサイクルに予算がつきやすい時期でもあり、JRの清算事業団の土地を買った。
- ・ 活動機構が管理運営を受託するために、さまざまに活動した。行政や議会の中でもなかなか理解がえられなかったので、一年半のあいだ、活動実績をつくって、「リサイクラ？ 活動機構」という任意団体を位置付け、職員がともにがんばった。その結果委託しても良いという雰囲気が出てきた。
- ・ 委託され、94/1オープンし、管理運営をすることになったが、形にするのは大変だった。やったことないけどやってみよう。行政と市民で1から工夫した。みんな自分の希望をひとつひとつ具体化していった。
- ・ 職員と市民がぶつかりあって喧嘩したこともある。「ここをこういう施設にしたいという思いのぶつかりあい」だった。こういう関係がなければ市民と行政の協働はできないだろう。信頼関係があつての協働だ。
- ・ このあと96年に2号館3号館ができていく。
- ・ 「リサイクラ？ 活動機構」のメンバーは毎年新しい人がはいてくる。そのなかで、行政と市民の関係は1期の時とはかわってくる。新たな参加者は、行政に教えてといい、職員が指導するような関係になってきた。これは望ましい関係とはいえないので、行政も新しい人にした。行政と市民と一緒に試行錯誤することが大切。
- ・ 自分は職員なのか区民なのか。土日に出ていく時、職員か市民かにかかわらず、施設にでていくことになる。地域の仕事の面白さをおそわった。

（施設の企画立案段階における協働）

- ・ 介護保険のところへ移動した際、このリサイクルの時の人間関係がよかった。リサイクルの活動に関わる市民は、リサイクルだけの活動をしているわけではない。
- ・ 介護保険は、行政の縦割り施策としてやりきれるわけではなく、介護が必要な人の他に、あらゆる市民の生活が関わっている。そこで、事業計画策定委員会に市民を公募した。15人中3人を公募にし、他の何人かをリサイクルのときに知り合った人に委員会メンバーになってもらった。

- ・ リサイクル？ 会議の時はみなが公募だったため自由に話ができしたが、介護の時は、医師会の会長や施設長、行政側の部長級職員もいて、市民は、はじめ発言しづらいムードだった。
- ・ 事前に勉強会をやって委員会に臨んだ。この勉強会によって市民委員の間で、個個人の意見を共有したため、後半では委員会の中でも意見を言えるようになった。
- ・ リサイクルの場合と違って、介護保険では、計画をつくる人と、実際に活動をする人が異なるので、計画に関わった委員の思いが、その思いに発した活動につながりづらく、もったいなかった。
- ・ 調布では25人中15人程度が公募だったので、計画策定後、公募市民が何かしたいと動きを起し、介護保険の相談窓口をつくって活動を継続させたと聞いている。計画策定の段階で多くの市民が関われば、行動につながったのかと思う。
- ・ 職員としてどのように協働したら良いのか、その時の流れのなかで、やれることをやっていくということだろうか。
- ・ 悩みながら活動していくうちに、他の職員が協働の問題を考える時に、聞いてくるようになった。また多くの市民とかかわりができたので、その後異動になっても、市民から担当窓口のように情報が集まってきた。行政と市民、両方の情報窓口になったような気がする。

(思いを形にする仕組みづくり)

- ・ 北区でも区民活動を促進しようという動きがでてきた。しかし、市民が活発に動いているという地域ではない。自治会、町会などがあって、高齢化しており、活動できていなかった。
- ・ そんななかで、青年会議所が10年以上前から地域活性化にとりくんできた。青年会議所を40歳で卒業したあと、担い手1000人会議を結成。実際には100人程度の任意団体だった。地域はひとつの動きでは廻っていない。産業振興、地域の活性化を考える団体が、地域の資源を掘り起こそうとした。その人たちが、町会、自治会だけではなくNPOに絡んだ。
- ・ 1000人会議は、ITの流れに注目し、区の施設を利用して夜間にパソコン教室を開始した。インターネット・ボランティア・インストラクター・システム(IVIS アイビス)を作った。いままで地域活動に参加してこなかった人たちが集まったシステムができた。企業人はクリエイティブで、地域の情報化にすすんでいく。このグループは北区地域情報化推進協議会となり、緊急雇用対策やIT講習の資金を利用して、行政よりも先に着目し、活動を展開した。その活動によって地域のネットワークの核になっていった。
- ・ こうやって、地域に、町会自治会、リサイクル、女性、防災などいろいろな活動をしているグループが混在している状況が生じた。
- ・ 北区区民活動促進検討委員会はこのような様々な活動をしている人たちが混在した状況を反映している。
- ・ 委員会の活動は行政が指導するのではなく、委員が自主的に行う形である。したがって中間報告の形で行われた市民フォーラムでは、多くの市民が集まる中、市民との質議においては、行政は一切関わらず、すべて質問に検討委員会の委員が答えていた。委員が作った意見だという自負があることがよくわかった。
- ・ 中間報告では、区民活動サポートセンターと市民活動促進委員会が提案されている。

	・ 北区には社会福祉協議会のボランティアセンターがあり、行政に密着した活動をしていたが、この、ボランティアセンターと新しい区民活動サポートセンターはどのように活動するのか、という問題がある。サポートセンターのイニシアティブは市民なので、従来のボランティアセンターとは違う。新旧の活動の課題、住み分けや噛み合わせは、自分達が模索してやっていくしかないだろう。自分達の地域特性にあったものは、他に手本はなく、自分達で作るしかない。 (よりよいパートナーシップにむけて) ・ 職員について。 職員の意識を変えなければいけない、職員は一生懸命やってほしいという意見は正しいが、それは大変なエネルギーだ。あまり職員を責めない方がいい。行政職員と仲間になって味方にしよう。職員は窓口で責められているので、市民は怖いと思っている。ゆっくり人間関係を作った方がよい。上手く使うこと。 ・ 市民について。 自分の主張をしてもいいが、ひくことを覚えて欲しい。あまり役所を頼りにするな。職員は信頼しつつ、行政と市民の線引きをし、職員に任せきりにならず、自分達がイニシアティブをもっているということを大切にしよう。わからないからやってではなく、わからないから教えてであるべきだ。役割分担するのではなく、協働していくことだ。 ・ 制度や組織について。 なぜ行政の仕組みはこれまでのシステムを踏襲していっただけでかわらないのかというと、広く普く平等に仕事をするための防御のしくみという面もあるのだ。 ・ 市民と行政が協働しようという時に、縦割りの組織が初めて問題になってくる。市民はその地域に住んでいるという権利を放棄してはいけない。市民が職員を育てる。「おかしい」というだけでなく、さらに提案すると、職員も気がつく。議会が形骸化しているのは市民がモノをいわないからではないか。意見をいうだけでなく、具体化していくためにどうするかまで踏み込んでいくのが大事。 (NPOと行政はなぜ協働するのか) ・ 協働は市民が地域を作る手法のひとつだ。最初に協働ありきではなく、目標のための協働である。本来なら地域をつくるために協働し、そのために市民参加条例などができるわけだが、最初に条例ありきではおかしい。しかし、条例を作ることをきっかけに、町をどのようにつくるかということを市民と考えていく機会にするという考え方もあるだろう。 ・ 期日までにやらなければならないのはおかしい。その期日に完成するのではなく、その期日をスタートにしていけばいい。 ・ 何かを考える新しいものを作るのは積み重ねである。だから協働型「自治」の模索という形になる(拍手)
坂口座長 菅原委員 谷本氏	・ 両方の立場で話していただける方はあまりいない。大変参考になる話だった。北区の名簿をみると、構成はこのメンバーと同じだ。活動の進め方や地域特性をいかすことなど非常に時宜をえていると思う。質問や感想を発言されたい。職員の方も参加されたい。 ・ 北区の人口はどのくらいか。 ・ 32万だ。今減少傾向にある。

小野委員	・ 私は公園の管理をやっている。公園は行政が管理責任をもっているのですが、ボランティアの活動も行政の仕掛けによることが多い。行政の干渉をどうやってさけるかが、課題になる。どのように歯止めをかければ良いか。
谷本氏	・ 北区の場合、市民に管理運営と呼び掛けたが、いろんな活動をしている方が集まってきてしまった。組織を作って委託しようというつもりだったが、目的が多様で、まとまらず管理運営はできていない。それが自然の姿である。行政が無理に入って作っていくのはよくない。NPO法人があると活動が盛んだというような誤解がある。最後は市民の意向だ。お金が絡むと難しい。エコ広場館は1500万くらいの運営委託費がでていた。行政にイニシアティブがあると、行政の要求に、歯止めを作るのはむずかしい。みんな悩んでいる問題だ。
渡辺副座長	・ 95年当時、エコ広場館オープンと同時に任意団体が受託というのは、画期的だ。議会で問題にならなかったか。
谷本氏	・ 団体の中に党派を問わず、いろんな議員とつながりのあるひとたちがいた。
渡辺副座長	・ エコ広場館の設置運営に関する条例をつくったのか。
谷本氏	・ 条例の中に、「区内で公共的なリサイクル活動をする団体に委託することができる」というような言葉を入れた。
渡辺副座長	・ 公募はしていないのか。
谷本氏	・ していない。次に活動する団体がでてきたら問題になるだろう。
高橋委員	・ 自治会の組織率は。
谷本氏	・ 98%程度だ。市民活動を所管する課は、もともと町会自治会担当、今でも委託費がでている。加入率が高い。
坂口座長	・ 西東京市はどのくらいか。
宮寺主幹	・ 西東京市では組織率はだしていない。旧田無市では資源ゴミの集団回収で登録している団体は把握している。旧保谷市では、連絡があった時だけ控えている。
坂口座長	・ 地縁組織と興味関心で集まる組織が共存していると大変ではないか。
谷本氏	・ 世代が違うので、お互いに、やっていることが違うという認識だ。
坂口座長	・ 青年会議所と市内のNPOとのかかわりはないか。
瀧島委員	・ 直接にはない。単年度制の弊害もあって、意識のある人間が中心になってやっている。
坂口座長	・ 社協（社会福祉協議会）はどうか。
齋藤委員	・ 社協としては、住民がイニシアティブをとって活動する際に、市民の側にたって活動するのが社協なので、市のおかかえではない。広く普く市民を支援していくという立場だ。
谷本氏	・ 北区の実情では、社協が区お抱えの傾向。事務局長も退職者で、相当額の資金が出ている。区としても社協は区の組織だという認識からぬけ切れていない。
坂口座長	・ 北区のボランティアセンターは活発だ。今後、市民活動サポートセンターもつくっていくのか？両方つくるとするのは地域特性か。
谷本氏	・ 社協のボランティアセンターも以前現在の場所から他へつくるといった話もあった
渡辺副座長	・ ところによっては、社協のボランティアセンターが、サポートセンター的な役割を担うということもある。それぞれの地域特性だろう。
谷本氏	・ 名称変更に関わらず、中身の課題検討をしていくことになるう。
坂口座長	・ この市はここから少しずつ皆で積み上げていくのが現状だ。
瀧島委員	・ 市民活動促進に向けての委員会がたちあがったということだが、協働のためにこの委員会ができたのか。また報告の文章化は行政によるのか、会のメンバーなのか。

谷本氏	・ 北区は地域的に市民活動を支援しようという動きはなかった。区の基本構想を作る段階で、公募委員が参加し、地域の中にN P O 活動が必要だという提案があった。基本構想にもりこまれたために促進検討委員会ができた。したがって市民主導でできたといえる。文章化については入力するのは行政側の職員だが、市民委員が十分に議論して形になったものだ。
坂口座長	・ 以上で、谷本氏の講演は終了する
坂口座長	・ 会議録の確認を行う (一部修正のうえ確認する)
坂口座長	・ 次回以降、骨子づくりをしていく。各論を総論へと展開し、骨子に向かいたい が、進め方についてご意見はあるか。 ・ 特になければ、提案する。各委員のなかに論点/キーワードとして生じている 項目を提出していただき、出てきたものを集約してグルーピングし、見出し を作って議論をしていくようにしたい。各グループについて3回ぐらい議 論し、そこで、パブリックコメントするなり、フォーラムにするなりしてい けばどうか。
小野委員	・ 名詞的なものでいいのか
坂口座長	・ 文章で箇条書きにしてくださってほしい。
渡辺副座長	・ 行政はどのように意図しているのか。発表して頂いた方が論点を浮き彫りに していくためにもよい。
山本課長	・ 少し詰めて次回発表する。
坂口座長	・ それでは、次回までに箇条書きで十個を用意して頂きたい。どのテーマでも 良い。見出しよりも、もうすこし詳しいものがよい。出てきたものについて、 作業し、グルーピングすることにした。
	・ 以上で終了する。

--	--